

Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 水 康徳 編集責任者：桶村清子 34期広報委員会 印刷所：東京印刷株

10月例会

パネルディスカッション

『中海圏域の未来像』

平成20年10月15日(水)米子全日空ホテルに於いて、10月例会が開催された。

冒頭 水 会長より、「現在 中海圏域は新しい局面を迎えているのではないかと油断するとのみ込まれるような危機感すらある。知恵をしぼって我々なりのまちづくりをしなければならない」と挨拶があった。



委員長タイムでは、政治行政委員会 茅野真一委員長が、「営業で大切なことは①情報収集 ②戦略 ③根まわし ④自分自身を売り込む ⑤失敗をプラスに ⑥納得させる ⑦情熱 である」と自分自身の経験をもとに話された。

続いて、パネリストに松江市長(中海市長会会長)松浦正敬氏、米子商工会議所青年部会長 漆原輝之氏、米子商工会議所青年部副会長 松岡浩一氏、コーディネーターに新日本海新聞社西部本社代表 寺谷寛氏をお招きし、パネリストに当会 中田耕治 直前会長を加え、『中海圏域の未来像』をテーマにパネルディスカッションが行われた。



「将来を担う若い人たちが自分自身の住む地域を、中海圏の連携によってどのように良くしていき、将来のビジョンを描いて

いくのか皆で考えながら、共通認識をもっていこう」と寺谷氏が口火を切り議論が始まった。

松浦市長から、現在議論されている道州制が採用され中国州が出来たとき今のままでは山陽地方にのみ込まれてしまう危機感があるが、4市(境港市は貿易 港、米子市は商都 空港、安来市は産業 工業、松江市は社会 文化 政治)をひとつの市として認識すれば、まとまりがあり力を発揮できる市になるという観点から、中海圏域の総合的・一体的な発展を図ることを目的として中海市長会が活動しているという話があった。そして、今後も環日本海交流の窓口になれるよう少しずつ実績を積み重ねることが大事だと述べられた。



中田直前会長 漆原氏 松岡氏より、境港市は貿易と松浦市長は挙げられたが、観光(鬼太郎)水産(マグロ)が話題になり貿易は陰に隠れてしまっていること、観光(鬼太郎)に一番ちからを注いでいるのが現状であって年々来客数が増加しているが、その増加スピードに対応しきれていないということ、米子市は商都と聞いてピンとくるものがなく、米子駅にしても他の都市の駅より開発が遅れているのが現状であり米子駅や駅前の開発が必要であること、また、米子市をもう一度商都にするために中海圏の玄関口ととらえ、お金を



落としてもらおう何か目玉のような施設が必要であることなど、境港市と米子市の現状・問題点について指摘があった。

続いて松浦市長が、4市の連携のあり方について、交流人口の増加、産業の活性化を目的とし、それぞれの市の特徴をとらえて考えるといろいろヒントがあり、4市で独自のものを作り出していくことが求められるが、それだけではなく、例えば松江市～境港市に直通のバス路線が無い等の問題があるので移動手段や駐車場の整備も不可欠であると話された。米子市は、山陰道の整備に伴い今後さらに人が集まりやすい所になるが、何か人を引きつける資源や施設がなければ交通の利便性が生かされないと述べられた。

松浦市長の話に対し中田直前会長が、中海圏域4市が同じ方向に進んでいく必要があり、例えば『水』をキーワードに連携していくことができるのではないかと意見を述べられた。また、漆原氏 松岡氏は、大山や医療の街などポイントに置き米子市をアピールできたら良いのではないかと述べられた。

最後に松浦市長が、これからはひとつにまとまって行かないと生き残れない、ひとつにまとまって損をすることは絶対にならないと中海圏域の連携の必要性を話され、10月例会は、閉会した。

今回の例会で、鳥取県西部地区のスキルアップこそが、この中海圏域の未来に必要不可欠であると感じスキルアップのために、経済人としてどうすれば良いのか考えさせられる例会だった。

(記事：門脇)

『中央会魂』

〜 中海テレビ杯初戦レポート



平成20年10月19日。淀江球場。天気は快晴。遂に中海テレビ杯の初戦を迎えた。相手は前年度優勝チームを下して勝ち上がってきた若いチーム。この1年間この大会のために準備してきた中央会野球部(TSC)にとってふさわしいフレッシュな相手である。

中田監督、北口助監督から気合を注入され、自然とテンションが高まる松田キャプテン率いるTSC。ベンチ入りメンバーの数では圧勝である。

午前9時試合開始。1回表、TSCは得点圏に走者を進めるも無得点。1回裏、先発勝田が守備の乱れなどもあり立ち上がり2点を献上。続く2回、代わった牧田が2点を失いTSCは序盤から4点を追う苦しい展開に。その後、牧田の好投とバックの堅守により相手の攻撃を抑えて0対4のまま迎えた5回表、TSCは高塚(康)の適時二塁打とワイルドピッチで2点を返す。追い上げムードが高まるが、直後の5回裏に守りのミスなどからさらに2点を失ってしまい、またもや点差を4점에広げられてしまう。



「もはやこれまでか…」と誰もが諦めかけた6回表、後藤(公)、牧田がチャンスを作り、福庭、有和の連続適時二塁打で3点を返すと、TSCベンチはお祭り騒ぎ。さらに高塚(康)がレフト線に適時二塁打を打ち遂に同点に(小椋が逆

転を狙い本塁に突っ込むも憤死)。沸き上がるTSCベンチとスタンドの大応援団。しかし、続く野口がレフトに浅いフライを上げ、高塚(康)が3塁からタッチアップで本塁を狙うもアウトの判定。結局この一回一挙4点を奪い同点としたTSC。

ところが、6回裏、二死1、3塁から痛恨のタイムリーを浴び、惜しくもサヨナラ負けを喫してしまった。

結果的に敗れてしまったものの、序盤の劣勢から同点に追いつくなど、「中央会魂」をみせることはできた。この経験を糧に、来年度は初戦突破、そして優勝を目標に頑張りたい。

最後になりましたが、応援して下さいましたOB及び会員の皆様、本当にありがとうございました。今後とも温かいご声援をよろしくお願い致します。

(記事:野口)



O B 訪 問

安達 清OB (17期ご卒会)
新OB会副会長兼事務局長



【入会のきっかけは?】

以前から誘いは受けていましたが、まだ会社の規模が小さく自分が営業の一線で行っていたため断っていました。40歳を前に「社長!地元の会に入られて、付き合いの幅を広げられてはどうですか?私たちも協力しますから。」と社員からも勧められ、入会を決めました。今となってはたいへん感謝しています。

【中央会での思い出】

入会当初は非常に楽しくてその中でも規律ある素晴らしい会だと感じました。その後、秦野会長時のカルチャー委員会委員長・宇佐見会長時の副会長では、「どうする山陰」や米子市長への提言など、「地域に向けての発信」をすることができ、中央会を地元の人に知ってもらうきっかけになったと思います。

また、運動会・トライアスロン・厄落としの会など楽しかった思い出はたくさんあります。

【今後のOB会について】

参加して良かったといわれる会・気楽に参加できる会にしたいですね。会からしばらく離れると出席することも億劫になります。私もそうでしたが(笑)。気軽に集まって、話をする中で得るものもたくさんあると思います。声を掛け合って参加し、現役の人とも交流したいですね。

【現役会員に一言】

仕事優先ではあるが、都合をつけて例会・委員会・行事などには積極的に参加してほしいですね。一生懸命活動に取り組むことが自己研鑽に繋がると思っています。私の友人・知人はほとんど中央会がベースになっています。年を重ねるにつれ、一人でも多くの人と交わることの大切さがわかってきました。

とても物腰の柔らかく優しく、そんな中にも強い信念をお持ちであることが垣間みえました。また、会社設立当初の話も伺いたいへん勉強になりました。

安達OB、お忙しいところ快く時間を取っていただきありがとうございます。(記事:辻)

まぐるバーガーin花回廊

今回7月で終わりにできなかった、昨年度の地域ビジョン委員会の最終ステージとして10月11日、12日、13日と「食のみやこin花回廊」に出店しました。

出店した初日、客足はポツポツといった感じで、「本当に大丈夫かな!？」と思うほどでした。「あと2日間がんばれるかな〜」という気分で2日目に花回廊に行ったところ初日とはちがいで、開店と同時に、売り切れるまで客足が途切れないほどの売行きで、3日目も午前中のうちに完売し、大盛況のうちに今回の出店は終了しました。

なお、2日目・3日目の盛況はテレビ・新聞で紹介されたからだ聞き、改めてマスメディアの凄さを感じました。

今回の出店は、委員会の終点にもっともふさわしいステージではなかったかと思えるほど、自分的には満足できる内容でした。

昨年7月から「食で地域活性化」というテーマで、約16ヶ月間委員会活動をしてきましたが、10月初旬の「しろねぎサイクル事業」今回の「みなとのまぐるバーガー」とそこそこ想ったことを形にして、最後終わることができたのではないかと思います。

最後に長期にわたり委員会活動に協力し、尚且つ今回出店に協力してくれた昨年度担当副会長・地域ビジョン委員会の皆さんに感謝します。

(記事:松原 毅)



秋を満喫！OB交流会

平成20年10月25日(土)大山トムソーヤ牧場において10月OB交流会が開催されました。当日、会員とOB会員・ご家族総勢70名は、まず初めに10時から大山観光農園で梨狩りをしました。ほとんどのみなさんが初めての経験でしたが、採りたてのみずみずしい甘い梨を口にして、みなさん満面の笑みを浮かべていました。お孫さんと梨を採るOB会員の姿は、とてもほのぼのとしていて、見ている会員の僕たちも優しい気持ちになりました。11時半より大山トムソーヤ牧場に移動して開会、水会長の挨拶の後に宇佐美OB会長の挨拶そして石黒OBの乾杯の音頭でパーベーキューが始まりました。最初のアトラクションは梨の早食い競争で、私も委員会を代表して参加したんですが、大山観光農園の梨はふだん食べている梨の1.5倍くらい大きく、実際にやってみるとテレビの早食い競争の様にはいきませんでした。でも隣で競争していた土岐副会長の梨を食べる早さには、とてもびっくりで会場を大いに盛り上げていました。

会場は静まる事なくアトラクションは続きます。次は梨をテーマとしたミックスジュース



コンテストで、梨の他に5品の食材を入れて作るのですが、食材を見ると何でこんな物がというようなものが多く納豆と味噌などもありました。各委員会とOBチームが作った7種類の美

味しい？ジュースを全種類のんで審査する会長とOB会長の姿を見て、これは罰ゲームじゃないのかと思った会員は私だけじゃないと思います。会長賞にはNEOラヴィ委員会の今川会員が飲食業をしているのにもかかわらず、このコンテストに参加したというその勇気を買われて受賞しました。表彰の後に総務委員会のメンバーが二人、とんでもない色と臭いのするジュースというか毒薬？を一気に飲み乾して会場をさらに盛り上げました。最後のアトラクションはミニブタレースで、各委員会とOBチームがレースの単勝とブタ連を予想するゲームです。ブタを後ろから誘導するジョツキーにはOB会員のお子さん4人と福田OBが選ばれました。OBの普段のスーツ姿も素敵ですが、ビニール手袋と長靴姿もとても良く似合っていました。すべてのアトラクションが終わって、丘でみんなで記念撮影をしていた時の事、あるOBがカメラマン側の正面に座っていた見ず知らずのカップルを見て、「そいつらも撮ったれ」とカメラマンに言って全員で大笑いし、和やかなムードに包まれました。今回のOB交流会は、どのアトラクションも子供から大人まで楽しめるものばかりで、子供達にも忘れられない楽しい一日になったと思います。



(記事:谷口)

中央会の思い出



中島太郎会員

平成3年に入会して早18年、思い出はありすぎてとても書ききれない。ふてぶてしい態度が災いしたのだろうか、5年位前からは「まだ現役か？」とOBの諸先輩方から冷やかされ始め卒会を意識するようになった。そんな18年間で学んだことは、中央会は知恵袋ということだ。異業種交流と一言でいってしまえばそれまでののだが、そこには自分のいる業界では知れない知識や知恵が存在する。例えて言うなら老朽化した旅館を営む私にとって施設の維持管理が入会以来の課題であったし今もそうであるのだが、とりわけ水圧に関して言えば絶対量が足りない。この問題をどう解決するか悩んでいたところ、ある会員が水を出したときだけ加圧するポンプを提案してくれた。しかも意外と安い。大規模な改修をせざるを得ないと思っていただけに安堵した。しかしよく聞いてみれば、マンションやビル、住宅でも2階へのこの手の圧送はごく当たり前のことらしい。業界では当たり前でも違う業種では目からウロコである。おそらく様々な異業種交流の中で得る知識はきっと有益な事象をもたらしてくれるであろう。そんな事象をもたらしてくれるには大切な事があると気づき又、後悔もしているので覚えていて欲しいのが、「謙虚さ」と「第一印象」である。人は第一印象で相手の8割方の人物像を勝手に判断する。良い方に判断されればよいのだが、あまり良くない方だと、相手が思う負のイメージを払拭するには相当な時間が必要とされる。無駄なことである。短い時間に多くの有益な事象を得ようと思うなら第一印象を良くすることは大切な事である。「謙虚さ」は入会以来自分に欠けていたと思うし、これがないため非常に損をしてきたと今思えるからである。

しかしながら、ふてぶてしい態度で謙虚さの足りない男でもあたたかく門戸を開き送り出してくれる、やはり鳥取県西部青年中央会は居心地の良い場所だ。

(記事:中島太郎)

これが私の 変革 revolutionize

あなたの好きな色は何色ですか？

気がついたら、身の回りには青い物が多い、こぞという時、赤いネクタイをしめるなど元気が出るなど、ふとした時に色を意識することはありませんか？カラーの好き嫌い、色の快感、不快感は人により感じ方が違うそうです。

カラーは視覚情報として、脳を通じて私たちのホルモンに作用し、心と精神に影響を与えます。私たちは、自分の性格や個性、考え、その時の精神状態にぴったりのイメージを持つ心地よい色を選んでいくそうです。

反対に、普段はあまり使わない色でも、効果的にファッションやインテリアに取り入れるだけで元気をもらえることもあります。黄色は「集中力を高め、能力を発揮したい時」、緑は「心も体もやすらぎたい時・人間関係をスムーズにしたい時」、青は「眠れないとき・イライラしている時」、紫は「ストレスが続いている時・癒されたい時」、赤は「落ち込んでいる時・パワー不足の時」、オレンジは「気持ちをパッと切り替えたい時・ストレスを発散させたい時」に使うと良いと言われています。

広告という職業柄、色はデザインを構成するのに非常に重要な要素であり、様々なことを日々学んでいるのですが、実は今年の4月から若干色に対する認識が変わる出来事がありました。長澤まさみと熊田曜子を足して割った感じの20歳の女性社員が入社したのですが、実は彼女はその人の持つオーラの色が見えるらしいのです。様々な人が見てもらった結果、意外にも自分が良く選ぶ色や好きな色が、オーラの色であることが多く、これは驚きでした。色彩心理学の先生によると、色には波長があり、自分の心の波長と合うものが美しく見えるそうです。

オーラはともかく、色の特徴を知って使いこなすことにより、気持ちや体、人間関係にも良い影響を与えることはできそうです。

(記事:藤本)



ビッグシップ地球号 ECOフェスティバルレポート

去る10月26日(日)米子コンベンションセンターにおいて、米子コンベンションセンター開館10周年事業として「ビッグシップ地球号ECOフェスティバル」が開催されました。



「もったいないから始めよう！楽しいエコライフ！」を合言葉に、様々な企業・団体から、色とりどりの企画・展示・販売が行われていました。電気自動車の展示、未来の乗り物セグウェイの試乗、様々なエコ商品の展示、子供たちへのリサイクル紙芝居、古着のフリーマーケット、中海で実際に泳いでいる魚たちの展示などなど。地産地消食堂ブースは、もちろん箸・食器のリユースおよびMY箸の推進。

我らが西部青年中央会からは、その

食堂ブースにおいて、総務委員会・エリアデザイン委員会が中心となった、ご存知「みなとのマグロバーガー」と「かにみそマン(かにみそ饅頭)」の出店。みなさん大声をあげて、中央会ここにあり！とアピールしておられました。

改良に改良を重ねられたであろう「マグロバーガー」は、以前感じたパサパサ感もなくなり、ジューシーで口に入れた瞬間「うまっ！」の一言。「かにみそマン」は、かに味噌そのもので、「酒のつまみにびったし！」。日本酒がすすみそうな美味でした。

近年ますます高まってきたエコ意識。このように見たり触れたり食べたり作ったりと、五感をフルに使っての体験は、自然に無理なく楽しくエコ意識を浸透させるであろうと感じました。特に、会場に来ていたたくさんの子供たちのキラキラした目が印象的でした。

これからの未来の地球を担っていく子供達のためにも、我々大人たちが先頭にたって地球環境を大切にしていかなければなりません。さあ西部青年中央会のみなさん、身近な事ひとつひとつからECO活動始めましょう！



(記事:白石)

10月度委員会報告

政治行政委員会

平成20年10月10日(金)於:米子ニューアーバンホテル 出席者/9名
議題/・役員会報告
・ワークショップ
テーマ:これからのまちづくり・米子市における線引きの見直しについて考える
・その他

環境問題委員会

平成20年10月6日(月)於:味空間 こうりん坊 出席者/13名
議題/・役員会報告
・11月担当例会の件
・その他

Neo・ラヴィ委員会

平成20年10月9日(木)於:米子ニューアーバンホテル 出席者/9名
議題/・役員会報告
・アンケートについて
・1月担当例会の件

ビジネス委員会

平成20年10月6日(月)於:レストラン ぶどうの木 出席者/10名
議題/・役員会報告
・10月担当例会の件
・会員拡大について

社屋移転のお知らせ

本池会員がお勤めされる、(株)山陰ビデオシステムさまの本社が下記の住所に移転されましたのでお知らせします。

【新住所】〒683-0801 鳥取県米子市新開2丁目1-7
山陰ビデオシステム

編集後記

10月27日付の日経平均株価の終値は7162円90銭を付けた。5年半前の2003年4月のバブル後最安値を大きく割込み、26年前の10月と同じ水準とのこと。去年12月の終値と比べると、株価時価総額とも半値以下になってしまった。去年結婚した小学校から高校まで同じ学校に通い大学での4年間同じ釜の飯を食べた親友から、待望の子供が出来たと嬉しいサプライズ報告を受けた翌日の話である。

「失われた10年」と形容される我々の世代にとって、日本のバブルやアメリカのサブプライムローンに代表されるバブルは実感がわからない。別の世界の出来事にさえ映るのではないかとさえ思う。株価が3万8915円87銭の最高値を付けた89年12月29日、小学6年生であった僕の記憶には、90年1月から放送が開始された「東京ラブストーリー」の方が余程、記憶に新しい。物心ついたときには日本の経済が下り坂に入っていた世代なのである。30歳を迎えるにあたり、社会人として新しい世代の親として、将来に対する漠然とした不安が焦燥感をかす。

「30才・ニッポンのオヤジになんだから、がんばんなきゃな。」親友の言葉を反響する。そう、がんばんなきゃなのである。昔も今も、いつの時代もオヤジは頑張らなくては。景気・株価に関係なく頑張らなくっちゃ、ニッポンのオヤジ！ニッポンの親父の代表・中央会の一員として今期も最後まで全力疾走だ！

(記事:内田)

エリアデザイン委員会

平成20年10月7日(火)於:米子ニューアーバンホテル 出席者/10名
議題/・役員会報告
・エコフェスティバル打合せ
・蕎麦刈り打合せ

広報委員会

平成20年10月6日(月)於:米子食品会館 会議室 出席者/10名
議題/・役員会報告
・「ハンサム」編集の件
・HPへの記事のアップについて

総務委員会

平成20年10月8日(水)於:大山トムソーヤ牧場 出席者/13名
議題/・役員会報告
・OB交流会について
・その他

第二回県青年中央会役員会報告

日時:平成20年10月23日(木) 19:15~20:30

場所:ホテルセントパレス倉吉

- (1)委員長・副委員長交流会報告
- (2)第60回全国大会(11月20日)について
- (3)経営研修会について
- (4)親睦委員会について(視察研修)
- (5)親睦委員会について(会員親睦事業)

10月役員会報告

11月役員会が平成20年11月4日(火)、米子食品会館にて開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。

- ・11月例会開催の件
- ・10月例会、OB交流会反省の件
- ・35周年事業企画会議についての報告の件
- ・その他

*なお、詳細につきましては各委員長までご参照ください。

10月例会案内

と き:平成20年11月17日(月)

と ころ:ホテルサンルート米子

内 容:講演 演題『森が悲鳴をあげている』

～子どもたちの未来のためににできること～

講師 サントリー(株) CSR・コミュニケーション本部
環境部長 高屋雅光氏

担 当:環境問題委員会